

5 川崎駅東口駅前広場再編整備事業

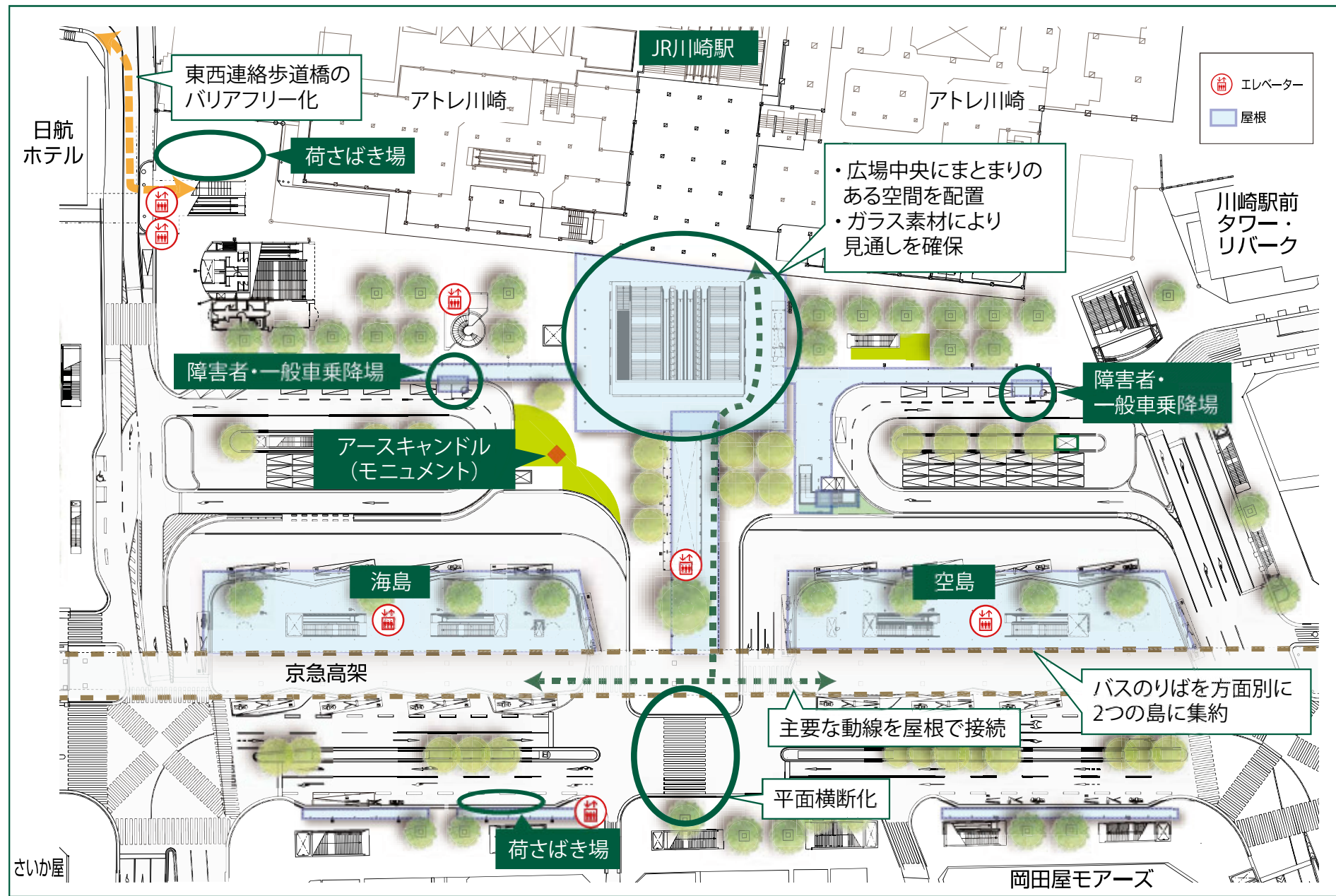
● 川崎駅東口駅前広場

整備前の川崎駅東口駅前広場は、1986(S61)年度に整備されてから、築20年以上が経過して、施設が老朽化していました。また、バスのりばが7つの島に分離されており、地下街からのみのアクセスだったことからバリアフリーや、歩行者の回遊性にも課題がありました。

そこで、川崎駅西口の再開発と併せて整備した新たなバスターミナルに、幸区方面行きのバス停を移すことで、東口駅前広場に空間的な余剰を生み出し、再編整備を行いました。

再編整備にあたっては、まず7つあったバス島を2つに集約し、歩行者が地上を平面で移動できるようにし、バリアフリーの問題を改善するとともに、歩行者の回遊性とゆとりのある広場空間を生み出しました。

また、閉鎖的な地下街への階段の上屋を撤去し、高い位置にガラスの大屋根を設けることで、見通しのよい、開放的な空間を確保し、さらに大屋根と連続して、地下街を見通せるガラスの回廊を設けることによって、地上と地下の回遊性を高めるとともに、東口から東西自由通路を経て、西口へ至る歩行者軸をつくりました。



まとまりのある広場を確保し、歩行者が憩える空間を創出



バス島を集約するとともに、階段の上屋を撤去し、フラットな屋根を高い位置に架けることで、視認性と開放性を確保

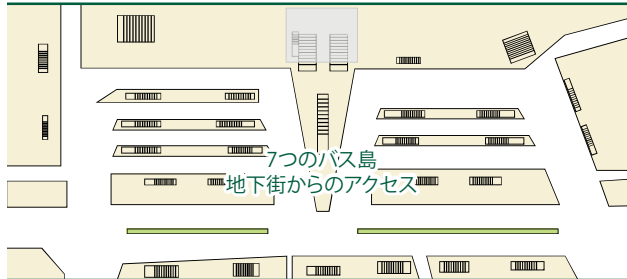


バス島上屋にトップライトを設けることで、明るい空間を確保しエレベーター・エスカレーターを増設

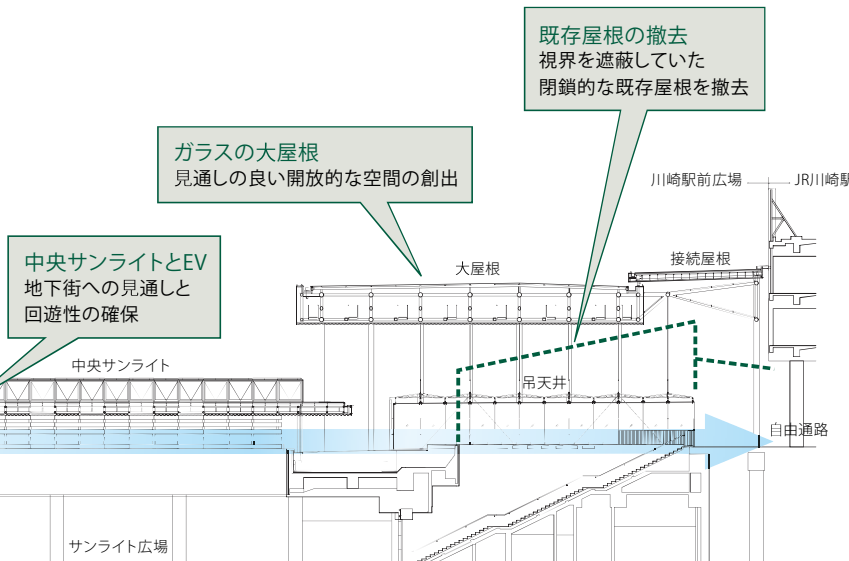
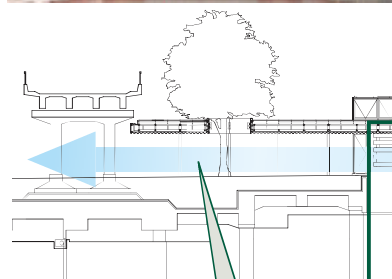
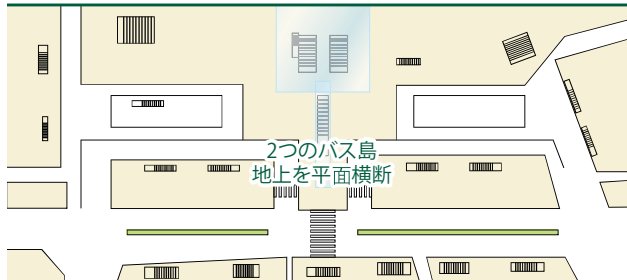


東西連絡歩道橋の段差をスロープにより解消し、エレベーター・エスカレーターを新設

川崎駅東口駅前広場(整備前)



川崎駅東口駅前広場(整備後)



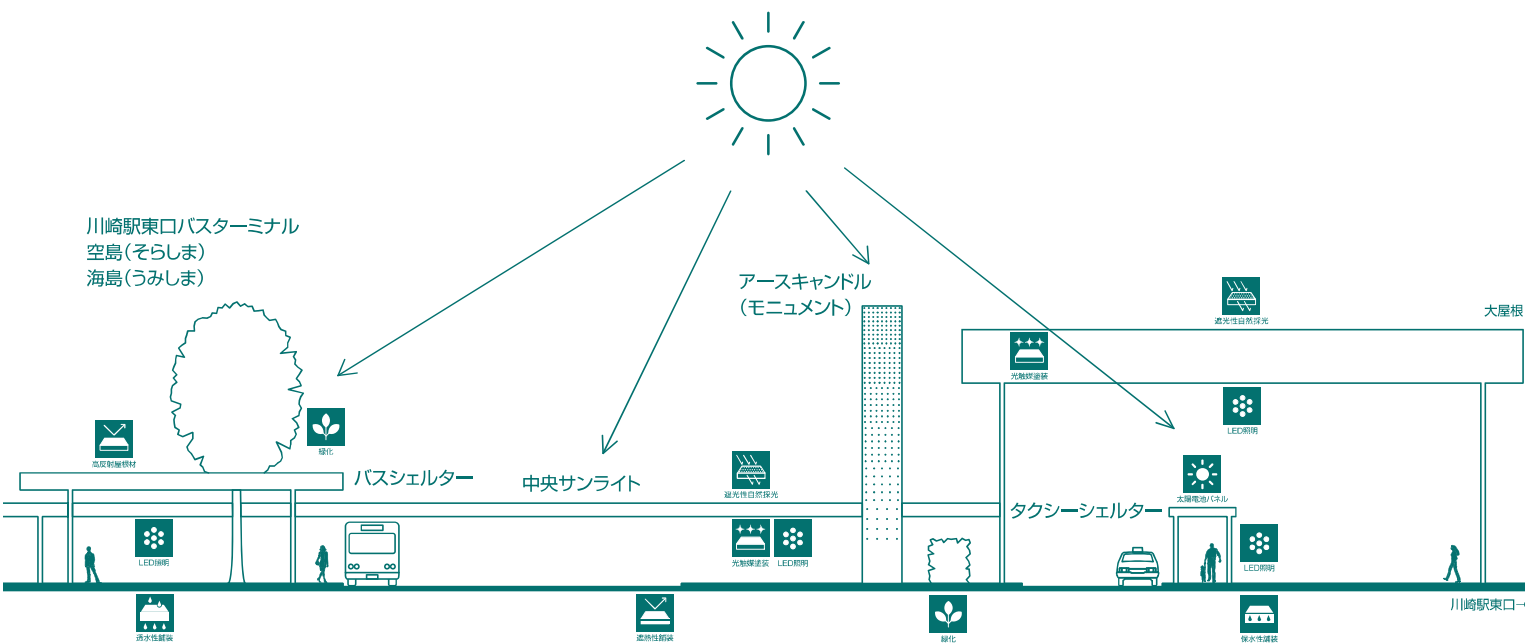
新たな歩行者軸 雨に濡れずに、広場中央を通り抜けられる歩行者空間の創出




L字型の大屋根と、その下に入れ子となっている地下街の空調の風除けとなるガラスの中屋根

東口駅前広場の環境技術

川崎市にはかつての公害対策で培った優れた環境技術を持つ多くの企業や研究機関が立地しています。こうした環境技術を多くの皆さんが身近に感じることできるように、東口駅前広場全体を環境技術の展示場とすべく、太陽電池パネルによる自然エネルギーの活用や、光触媒など、川崎市内で研究・開発されている先端技術を導入しました。




アースキャンドル(モニュメント)
 周辺の環境の動きに反応して生き物が呼吸するように光るLEDが、時間の経過、風や気温を感じて変化します。地球(earth)へのやさしさや明日(asu)の未来を明るく灯すキャンドルの意を込めて愛称が選定されました。
LED照明
 消費電力が少なく省エネルギーです。



光触媒塗装
 光が当たると、その表面で強力な酸化力が生まれ、汚れをきれいにするとともに、雨などで濡れると、水が表面と汚れの間に入り込んで、汚れを浮かせ、いつもきれいに保つことができます。
保水性舗装
 舗装内に保水された水分の蒸発により歩道の温度上昇、照り返しを抑えます。



透水性舗装
 空隙が大きい透水性舗装により、歩道の温度上昇、照り返しを抑えます。
遮光性自然採光
 屋根や壁面などにガラス材、トップライトを用いることで、自然採光によって明るさを確保しながら遮光性を高め、昼間の消費電力、気温上昇を抑えます。



遮熱性舗装
 舗装を加熱する近赤外線を反射し、舗装への蓄熱を防ぐことによって、車道の温度上昇を抑えます。
緑化
 壁面に植物を植え、植物の蒸散効果により、ヒートアイランド現象を緩和します。



太陽電池パネル
 太陽光のエネルギーを電気エネルギーに変換します。発電した電気は、東口駅前広場で活用し、時間や気温、湿度とともに「環境配慮広報掲示板」に表示しています。



高反射屋根材
 太陽光中の近赤外線領域を効率的に反射する高反射性の材料を屋根材に用いることで、昼間の屋根材への蓄熱を抑制し、夜間の大気への放熱を緩和します。

環境技術が使用されている位置



川崎駅東口駅前広場の歴史

川崎駅東口駅前広場は、1958(S33)年度に神奈川県で初の駅ビルが完成し、1966(S41)年度には、京浜急行本線の高架化に伴い踏切が解消され、電車と自動車及び歩行者の動線が分けられました。その後1986(S61)年度には、地下街が整備され、自動車と歩行者の動線が地上と地下に分けられました。こうした取組は、当事としては先進的なものでしたが、時代の経過に伴い、バリアフリーや回遊性といった観点からの課題が生じたため、2010(H22)年度に、歩行者が地上を平面で移動するルートを設定する等の再編整備を行いました。



地上と地下で歩分分離